

1977年5月、琵琶湖に淡水赤潮が発生し、その原因の一つが合成洗剤に含まれているりんであったことから、県民が合成洗剤の使用をやめ、粉石けんを使おうという運動が、いわゆる「石けん運動」です。

「石けん運動」における、自分たちの環境は自分たちで守ろうとする“自治”と、県民と行政が協力しながらそれを達成しようとする“連携”の精神は、2021年7月に策定された琵琶湖版のSDGsである「マザーレイクゴールズ(MLGs)」にも脈々と引き継がれています。

1. 条例制定まで結びつけた県民による「石けん運動」

1970年頃から、赤ちゃんのおむつかぶれや、主婦の湿疹被害などが発生し、滋賀県内各地で合成洗剤が問題ではないかという議論が起きました。女性団体や主婦が中心となり、その勉強会や石けんの共同購入運動などが始まり、特に石けんの共同購入は大きな広がりを見せていきました。



写真4-1-1
「石けん運動」の展開(1980年)

そうした中、1977年5月、琵琶湖に悪臭を放つ赤褐色のプランクトンによる淡水赤潮が大発生しました。その原因の一つが、肥料や当時当たり前のように広く使用されていた合成洗剤に含まれている「りん」であることがわかりました。この赤潮の発生を契機に、消費者団体をはじめとする各種団体など県民が主体となり、りんを含む洗剤の使用をやめ、天然油脂を主原料とした粉石けんを使おうという運動が始まりました。これがいわゆる「石けん運動」です。

琵琶湖を守るため、粉石けんを使おうといううねりの中で、1978年に主婦層を中心に「びわ湖を守る粉石けん使用推進県民運動」県連絡会議(通称:石けん会議)が結成されました。この「石けん会議」が中心となり、行政に対して早急に実効性のある対策を講じるよう強く要求した結果、1980年7月、りんを含む家庭用合成洗剤の販売・使用・贈答の禁止、窒素やりんの工場排水規制を盛り込んだ「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」(通称:琵琶湖条例)が施行されました。石けん運動に表れた県民の思いが条例として実を結んだことは本県の環境行政の歴史に残る出来事です。



写真4-1-2 マザーレイクフォーラム主催
「びわコミ会議」の様子

2. 「マザーレイクゴールズ(MLGs)」ができるまで

琵琶湖条例の施行後、工場排水の規制、下水



道の整備が進み、琵琶湖の水質には改善傾向が見られています。しかし、多様で多くの生き物でにぎわっていた琵琶湖を取り戻すまでには至っていません。現在の琵琶湖では、魚や貝の生息に影響を与える要因は水質のみならず、気候変動の影響等、複雑多様化しています。

このことから、豊かで美しい琵琶湖を次世代に引き継ぐには、何か一つだけを改善すればよいということではなく、一人一人が自分自身の暮らしをトータルとして見直すことが必要になります。県では2011年から2020年にかけて、琵琶湖の保全について多様な主体が集い、考える「マザーレイクフォーラム・びわコミ会議」を開催し、毎回約200名の参加者から今年一年琵琶湖のためにあなたが出来ることとして、「びわ湖との約束」を集めてきました。石けん運動の時代とは異なり、価値観が多様化し、地域の暮らしも大きく変化した中で、2017年頃から「びわ湖との約束」をもとに、多くの人がゆるやかにつながることができる新たな枠組みの検討を始めました。

検討を進める中でSDGsの認知度が高まってきたこともあり、「びわ湖との約束」をもとにした「琵琶湖版のSDGs」はどうだろうかというアイデアが出てきました。多くのワークショップを通じて様々な参加者の意見を得ながら、多様な主体となる「マザーレイクゴールズ推進委員会」において策定した新たな協働の枠組みが、「マザーレイクゴールズ(MLGs)」です(2021年7月1日策定)。



図4-1-1
マザーレイクゴールズ(MLGs)ロゴマーク

3. MLGsの広がり

MLGsは「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会への目標(ゴール)であり、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、琵琶湖を切り口として独自に13のゴールを設定しています。SDGsの視点から見ると、琵琶湖を通じてSDGsをアクションまで落とし込む仕組みがMLGsであり、MLGsの取組はSDGsの達成に貢献するものです。MLGsからの視点で見ると、琵琶湖を通じて、石けん運動以来40年にわたる県民等多様な主体による活動がSDGsにつながっていることを発見する仕組みと言えます。

MLGsの達成状況は、年に1回、MLGsに関わる人々が集い、今後に向けて学びあう「MLGsみんなのBIWAKO会議」において、評価報告書が公表されています。この会議ではMLGsに賛同する県民、事業者、研究者、行政がフラットに、琵琶湖のこれまでとこれからについて話し合い、つながりあって共にMLGsの達成を目指しています。



図4-1-2 MLGsとSDGsの関係

琵琶湖保全再生課